

## 教材開発と教員研修の可能性

2022年1月22日  
株式会社学研教育みらい  
麻生征宏

私たち学研グループは  
すべての人が心ゆたかに生きることをお願い  
今日の感動・満足・安心と  
明日への夢・希望を提供します



想像の先を、創造する

人のため、社会のために  
まなび続ける  
情熱とスピード感を持つ  
個の力を集団の強さに  
現状に満足しない

1. 現在進行中の提案について
2. 授業（研修）＋開発スキーム
3. 企業が関わることで、もたらすことができるもの

### 【目標】 具体的に行いたいこと

現在進行中の提案内容

小・中学校のタブレット等端末で使用できる  
学習ゲーム(アプリ)及び  
指導法・指導パッケージの開発

### 社会的状況・背景

現在進行中の提案内容

- GIGAスクール構想の前倒しによる一人一台端末の実現
- 教育の今日的関心事への対応
- カリキュラム・マネジメントの必要性(学習指導要領コードの活用)
- 社会課題の解決に向けた思考・実践できる資質・能力の育成

### 【目的】

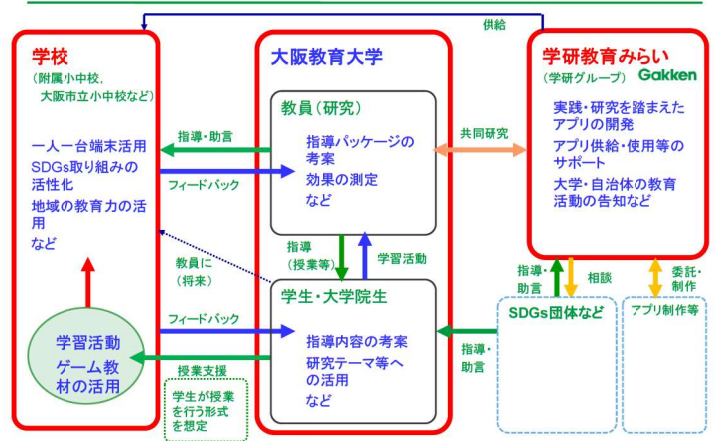
現在進行中の提案内容

- 一人一台端末の積極的活用
- 教科等横断的指導の実践の拡大
- 学生時代からの実践が教員として生かせるような基盤づくり
- 教員養成課程カリキュラムと小中学校カリキュラムの連携(地域の教育力の活用)モデル
- 教師の負担減

1. 現在進行中の提案について
2. 授業（研修）＋開発スキーム
3. 企業が関わることで、もたすことができるもの

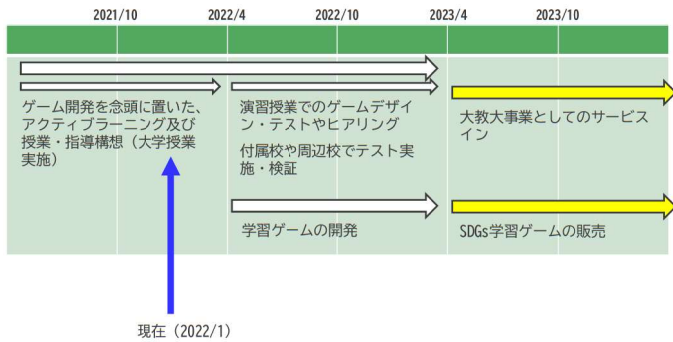
## スキーム（素案）

授業（研修）＋開発



## 大学院授業と開発の関係（時系列 案）

授業（研修）＋開発



1. 現在進行中の提案について
2. 授業（研修）＋開発スキーム
3. 企業が関わることで、生じる可能性

## 考えられるメリット①

企業が関わることで生じる可能性

企業の側からみて

- ・ 開発期間・サイクルの短縮

開発→発売・現場投入→使用・ヒアリング→使用増施策実施→使用・ヒアリング→修正・改訂検討



開発（使用・指導方法セットで）→発売・現場投入→使用・指導方法課題検証→修正・改訂検討

より新しい、より指導の現場に合った教材が随時提供されやすくなる。

指導方法を自ら考え、実習した教員が学校で指導を行うことになり、①新たな教材導入ノーマルハードルが下がる、②大学院生など地域の教育力の活用につながる、③実際の指導場面と同様の指導体験・スキルを持って教員となり、すぐに力を発揮できる。

## 考えられるメリット②

企業が関わることで生じる可能性

教員養成・教員研修からみて

- ・ 教材開発視点（思考）の育成・向上

教科ごとの用意された「教材」を使う。教科に合った（独自の指導に合った）教材をつくる。



さまざまな教材を組み合わせる、新たな教材を想起する、自分だけではなく多くの人が使える教材について考える。

などの「思考」への変化・発展

ニーズやウォンツの顕在化（何をしたいか、どのように・どんなことを教えたいかがわかる）。教材の使用感・改善案などにたいする感覚・批判的検討視点（能力）の基盤育成。

## 考えられるメリット③

企業に関わることで生じる可能性

大学・教員養成機関からみて

- スキルや経験の認定の可能性
- 教材(市販などが行われ第三者に認知できるもの)開発の経験や実績
- 「大学発」「コラボ開発」教材等の増加、継続化
- 上記による、大学ブランドの向上など

具体的アウトプットを増やすことができる。

研究等に基づいた、信頼の高い教材や指導方法などを、指導・学習の現場に届けることができる。

## 考えられる課題

企業に関わることで生じる可能性

- 開発コスト(特に初期)
- 継続に関わる障壁…企業の変化(改組や事業構造の変化)、教育業界にある企業の位置づけや受け入れの考え方
- 不確実要素…学生の人数や教科の偏り、関心事項など
- 社会・技術的变化スピードと教育界のスピードの違い…急な変化・変容可能性と数年(4年・10年)サイクル

Gakken